



### 社会福祉法人友愛学園 広報誌 VOL. 39

発行日 令和 3 年 12 月 20 日 発行人 社会福祉法人 友愛学園 〒198-0001 東京都青梅市成木 2-107 0428-74-5453 電話 FAX 0428-74-6906

П

https://www.yuaigakuen.or.jp/

ウィズコロナ』と『支援

度は劣ると言

わ

れる

事 務局長 敏

ある。 6波になっていないことを祈りたい。 があるが)会食などは控える必要が 解 なくされる。 えない存在を意識しての生活を余儀 筋縄ではいかず、しばらくの間は見 ロナウイルスというのは、本当に一 ター発生ということらしい。このコ 生との報道もされている。いわゆる 者施設で三十名を超える感染者が発 (いつまでと言えないところに苦しさ いる私たち職員は、 「ブレイクスルー感染」によるクラス 除されてもまだまだしばらくの間 のワクチン接種を終えている高齢 新規感染者 宣言が解除され 広報誌が発行されるころ、第 九月三十日をもっ 月 命を預かる仕事をして が何故 た。一方では、2 緊急事態宣言が か一気に減 て緊急事 に コ 口

内 触者の判断目安について、 施設でのクラスター発生の報から程 \$ メートル以内の接触」とされていた 日間以上継続」と伝えられ、濃厚接 のクラスター発生となった。この頃 ない四月、 風邪症状・37.5度以上の発熱が四 . かつ15 昨年三月末の千葉県の知的障害者 相談・受診の目安について、 分以上の接触」と変更され 四月下旬に「1メート はぁとぴあ原宿で十九名 当 初 ル以 2

> と考える。 な情報がない中、 のが国内の実状だったのではないかの対応を余儀なくされていたという 体制整備を模索しながら同時進行で でPCR検査を含め とのない初めての事態であり、 \$ 文言によってかなり 誰もがこれまで経験したこ 5 不明なことだらけ の混乱を来して コロナ対応 日 確 0 か

八月十三日、その後十八日まで経過日、最後の陽性者の隔離期間終了がるが、最初の陽性判明が七月三十一るが、最初の陽性判明が七月三十一 二週間で収束に至ったことになる。 童部で七名のクラスター発生となった。

こと

りに主体性をもって職務にあたっ

4

職員が勝手な言動をせず、

指示通

た

③ゾーニングの早期判断をしたこと②抗原検査を実施したこと

はコロナウイルスに関する情報も社原宿でクラスターが発生したときとがりを見せてきている。はぁとぴあの変異によって子どもへの感染が広 れば入所施設ではクラスターとなる報じられた。ひとたび感染が発生す で密を回避することが難しい環境下者施設、障害者施設など、集団生活 たのではないか。また、デルタ株 ことが社会で認識されるようになっ で多くのクラスターが発生し、 勢もかなり変化している。 度 々

える。 期間で収束できた大きな要因と考 感染者と非感染者の早期の確定 迅速に PCR 検査が実施さ が

37 以 四 間 以 上 0 たこと 1 四 間 購入できる環境にあったことの意味 抗れ は 大き 点が挙げられ 原検査キットがドラッグストアで たこと、 マ で収束に至った理 会議報告で児童部

あれから約一年半、 この八月に

> = ユ ア

ル に

沿 つ

7 対 応

を開

た。

**哈**管理職

から

短

期 0)

由とし

て以下

今年に入ってから、全国的に高齢

各事業所がコロナの影響を踏まえな 発信した。VOL.37、VOL. 生について記録の意味を込めてまとめ、 ぁとぴあ原宿でのコロナクラスター 誌「友愛」では、VOL 新 |型コロナウイルスの出現以 36 で、 38では、 後、 は広

での支援とは違った次の時代を意識 族支援を中心に、各事業所がこれま という見えない存在を意識した「ウ した支援の在り方、 イ あろうと考えられるコロナウイル だ、場合によっては年単位で続くで がら支援状況を中心に発信した。 今号は、 かしながらどのように活 ズコロナ」時代の利用者支援、 いくのか、 先に述べたようにまだま 事業所の特性 家 を ス

## 児童部

# を振り返る新型コロナウイルスのクラスター

たワクチン接種後に体調不良を訴え ました。また、同日に先日実施され 用事以外は居室で過ごしてくれてい でしたが、トイレなど必要最低限の 静養をしてもらうこととしました。 の痛みを訴えたこともあり、 は見られませんでしたが、前日に足 本人には体調不良を示すような症状 も37.6度の発熱が確認されました。 ろ、一名の児童に38.5度、再検温で 遊びを行うため検温をしていたとこ 水遊びに参加できない本人は不満顔 ていた夏休みのイベント、プール(水) 月三十一日の暑い日の午後、計画し 夏休みに入り十日余りが過ぎた七 コロナウイルス感染 通院し PCR 検査 居室で

> 児童に陽性反応が示されました。 トを購入することにしました。発熱 とともに、市販の簡易抗原検査キッ 考え、管理職と主任・副主任で対応 とは否めません。しかし、万が一を どこか他人事のように感じていたこ 調整など行うこともありましたが、 コロナウイルス感染発生で臨時休園 童七名に実施したところ、発熱した した児童と簡易抗原検査が行える児 を協議し、勤務体制の見直しを行う の措置が取られ、職員の勤務体制の を通わせている近隣の保育所等でも のの コロナウイルスクラスターの発生 たとの連絡がありまし 職員が子供

発熱もない一名に陽性反応がありまた。今後対応に入ると第一報があり、ら、今後対応に入ると第一報がありました。そんな中、午後に感染したました。そんな中、午後に感染したましたところ、活気があり、かからず、病院から連絡をうけた管

施することになりました。 保健所に相談し、指示に基づ とことを保健所に相談したとこ が、休日診療の対象にならないと言 が、休日診療の対象にならないと言 が、休日診療の対象にならないと言 が、休日診療の対象にならないと言 が、休日診療の対象にならないと言 が、休日診療の対象にならないと言 が、休日診療の対象に連絡しました が、休日診療の対象に連絡しました

護師で対策を検討、感染児童のエリスの内一名が八月一日に簡易抗原検査名の内一名が八月一日に簡易抗原検査に三名の感染が確認された児童の他に三名の感染が確認された児童の他に三名の感染が確認された児童の他名が八月二日の起床時に関節の痛みを訴れた児童でした。保健所より、感染した八月四日、保健所より、感染した

実 エリアを分けての対応ができました。 
の させました。感染が発生した棟が男こ 
認されて別の場所で隔離対応をして 
いた児童も感染児童のエリアに移動 
させました。あわせて、初めに感染が確 
ました。あわせて、初めに感染が確 
す混合棟でトイレが二か所あったため、 
ア(グリーンゾーン)と非感染児童のエ

五日に検体を提出した別棟の 五日に検体を提出した別棟の 程度所から八月十三日までが隔離期間、その後、施設ということから、 保健所から八月十三日までが隔離期間、その後、施設ということから終 場観察期間を設ける必要があり、八月十四日から十八日がその期間となると伝えられました。新たな感染がると伝えられました。新たな感染があり、八月十四日から十八日がその期間となると伝えられました。新たな感染が確認されば、八月十九日には感染児童のエリアを消毒すれば通常の 集児童のエリアを消毒すれば通常の などに戻せる目途がたち、少し明かりが見えてきたように感じました。

八月十四日からは、感染した職員でなどの着用も終了とし、日常の生財を解除し、児童も通常の居室に移が図れました。八月十九日には保健が図れました。八月十九日には保健が図れました。八月十九日には保健が図れました。 八月十九日には保健が図れました。 八月十九日には保健が図れました。 八月十九日には保健が図れました。 八月十四日からは、感染した職員でなどの着用も終了とし、日常の生活に戻すことができました。

途隔離できたことなど『運がよか 初に感染した児童の自立度が高く、別 2波の感染が発生しなかったこと、最 それだけではなく、職員、児童とも第 た大きな要因だとも思います。しかし、 できたことも短期間での収束に繋がっ 定を行ってくれたため、エリア分けが 検査を実施してくれ、早期の感染者特 ではなく、児童・職員全員のPCR あわせて、保健所が濃厚接触者の特定 短期間での収束に繋がったと思います。 割を淡々と果たし動いてくれたことが 我慢をしてくれ、職員はそれぞれの役 た』としか表現できない幸運があった こともご報告させていただきます。 児童は自分なりに状況を理 つ

# **支援と今後について新型コロナウイルス禍での**

児童発達支援管理責任者・主任

保護者とのイベントの中止、外出の 保護者とのイベントの中止、外出の 保護者とのイベントの中止、外出の 保護者とのイベントの中止、外出の を注視しながら、行ってきました。 を注視しながら、行ってきました。 を注視しながら、行ってきました。 をれ、三月からは学校が臨時体校と され、三月からは学校が臨時体校と され、三月からは学校が臨時体校と なり、最終的には六月末の通常登校 をない、我慢の生活を送ることにな りました。また、児童部での生活も りました。また、児童部での生活も

せ、見童部では見童り艮所奏り上舌一学校での行事や日々の学びとあわてはならない状況となりました。制限などさまざまな規制をかけなく

学校での行事や日々の学びとあわ 学校での行事や日々の学びとあわ 学校での行事や日々の学びとあわ をではなら、安心感を得ながら児 を受けながら、安心感を得ながらい るな人たちとのかかわりの中、刺激 を受けながら、安心感を得ながられ を受けながら、安心感を得ながられ を受けながら、安心感を得ながられ を受けながら、安心感を得ながられ を受けながら、安心感を得ながられ を受けながら、安心感を得ながられ を受けながら、安心感を得ながられ を受けながら、安心感を得ながられ を受けながら、安心感を得ながられ を受けながら、安心感を得ながられ

児童は日々、さまざまな体験をして成長していきますし、私たち職員は日々の中でそのような機会を設けられるように考えながら支援をしています。児童と一緒にイベントを考え実施し、児童の想いを実践することで、自己肯定感を育めるような機会を設けめ組むこともあります。





面(台所)を見たことがなかったり、したことがない、カードのチャージを行ったことがない、カードのチャージをたことがない、ATM を使ったことがない、ATM を使ったことがない、ATM を使ったことがない、ATM を使ったことがない、ATM を使ったことがない、ATM を使ったことがなかったり、

居すれば、必要になるスキルです。童部を退所してグループホームに入がありません。これらのことは、児がたことがないなど、あげればきりったことがないない、自転車に乗調理をしたことがない、自転車に乗





います。

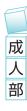
新型コロナ感染防止・予防のため、 別出等規制をかけたため、児童はこれらのことを経験する機会が大幅に は少してしまいました。もちろんコロナウイルス感染下でも、可能な範 ロナウイルス感染下でも、可能な範 ロナウイルス感染下でも、可能な範 はでのイベントは企画し、実際に、 お弁当やおやつを購入し、園庭で遊 がなどは複数回実施しましたし、夏 がみやクリスマスなど季節のイベン トも行いました。これらは『経験の トも行いました。これらは『経験の トも行いました。これらは『経験の というより、『ストレス発散の 様会』としての意味が大きかったと 農会』としての意味が大きかったと 言えます。

令和三年度になり、ワクチン接種 と の対象から外れており、結果 大。十二歳以上の児童については十 大。十二歳以上の児童については十 大。十二歳以上の児童については十 大。十二歳以上の児童については十 大。十二歳以上の児童については十 とかし、十二歳以下の児童は関友種で のが追んでいます。職員は職域接種で のが追んでいます。職員は職域接種で

験の機会は保障しなくてはなりませ は多いのも事実です。 だまだ慎重に検討していくべき事柄 きたいと考えています。 保障はとても大切になります。 ん。また、児童の成長や楽しみとい の成長を促す意味でもさまざまな体 会を摘むことなく、児童の成長の機 な情勢や感染状況を鑑み、 の感染予防を考えながらも、社会的 ったことから、余暇や趣味の時間の 会を多く持てるように取り組 外食やイベントへの参加 しかし、児童 経験の機 など、ま んでい 児童







# れからを思う

たと読み取れ、「自粛、中止、禁止」週間の対応検討は多岐にわたってい 記されていた。記録から、その後1 にて不要不急の外出の自粛指示」と 務連絡二月十七日付けを掲示、朝礼 まる。その日には、「厚労省からの事 過を遂次更新してきた記録である。 応への迷いから、これまでの対応経 う得体のしれないものへの恐怖、対 応」という表題の EXCEL シー などの言葉で埋め尽くされている。 トがある。新型コロナウイルスとい 記録は令和二年二月十九日から始 ダには「コロナ対 宮崎啓太

きた看護師が在籍していたことも心 を急ぐことをしないよう努めた。幸 し合い、納得するまで決定的な結論 情報収集と検討、とにもかくにも話 判断を行ってきた。まさに手探りで、 いにも、感染症対策を主に実践して いては、手続的正義の手法を用いて 新型コロナウイルスへの対応にお

について」である。そこには、『「With 伴う新型コロナウイルス感染防止行動 事長文書「緊急事態宣言の再発出に 出たのは、令和三年一月十五日付の理 にて「ウィズコロナ」と初めて言葉が 改めて確認してみれば、法人文書

> こうとのメッセージを受け取った。 かと思います。』と記され、理解し合 て問われる時代を生きる事ではない としてどう想像できるか」を人とし Corona を生きる」 ということは い、助け合い、難局を乗り越えて行 「自分以外の人の気持ちを自分のこと

身近なものだけではなく、地域社会 その近親者をイメージしていたよう 利用者やご家族、職員や職員の家族、 の対象は、比較的身近で、 なのだと思うし、ウィズコロナとは、 の対象は、個人や限定的なものや、 に感じる。そして今思うことは、そ 開き拡げる」ことだと思う。 「閉じた (閉じてしまった)」ものを 当初、理解し合う事、助け合う事 成人部の

記録から分かる。 第2波では一部緩和していることが た。第1波で全面的に閉じた支援を、 いくかを考え、具体的に行動してき からコロナとどのように向き合って 振り返ってみると、第2波の段階開き拡げること

買い物や余暇支援、項目ごと、個別 粛から全面的解禁など、通勤や通院 用者でいえば、公共交通機関利用自 同行通院の併用、グループホーム利 よび継続、前方処方による対応から PT や OT によるリハビリの再開お 利用者の身体機能の維持に必要な 成人部の利用者には今現在も含め、 事業所ごとの検討を行ってきた。

> 開しているが、抗原 やく対面面会を再 和三年十月からよう 対面での面会自粛を ば、 うことが出来た面会 お願いしてきた。令 自 粛の解除を除け 長期間にわたり、



制限、面会場所の指定など、 ある中での実施となっている。 制 約 が

出品を行っている。一部をご紹介する。 様々なイベントが再開されるのを契機 禍だからこそ進められた取り組みと or.jp/)と称したホームページを開設 PLUS (https://plus.yuaigakuen. いるが、以前お伝えしたように YUAI 現活動(アート創作活動)を展開して では工房 YUAIを中心に利用者の表 に、公募展への応募や、作品展への 言える。また、令和二年度末から 伝える事を継続できた。これはコロナ し、作品展等開催困難な状況下でも、 ●カンザンギャラリー展示 積極的に動けたこともある。成人部

●人ねっこアート 月三十日~二月二十八日

三月二十五日~三十一

日

●アール・ブリュット立川 2021 Fellow Art Gallery 七月二十八日~十月二十四 四月二十八日~七月二十五 九月二日~十五 日 日

日

かなり不自由な思いをさせてしまっ

り」は社会的ニーズとして求められ 飲み、時間を共有できる場を作りた 光客も、皆がふと立ち寄り、お茶を こと。子供も大人もお年寄りも、観 考えているが、当初からのコンセプ 業所は一体的に運営していきたいと 年末までの達成目標として作成した。 相談支援事業所の移転、サテライトシ ていたし、青梅市では、令和二年一 コロナ以前から、「人と人との繋が トは「集いの場」として立ちあげる ョップの開設、駅近くにアパートメン いと構想していた。考えてみれば、 ト型グループホームの開所を、令和四 サテライトショップと相談支援事

が必要だと感じる。 解し合うこと。今だからこそ、「場」 他者の思いを想像し、助け合い、理 かし、会の活動は止まった状態らしい。 げ、体操教室を開いた職員もいる。し With Coronaを生きる」ことは、 成人部には、第2層協議体を立ち上 理事長の言葉を借りるのであれば、

まずは出会いから」と考えている。 められていないと思う。「繋がりの場 ある。法人からもGOサインを得た。 ている。購入を検討している土地も ウィズコロナ、集い方の変容が求め れているが、「出会い」の変化は求 九月より事業開始に向け再び動

月に「おうめ地域支えあいフォー

ム」が開催された。



# はぁとぴあキッズ・代々木の杜

# いまを生きる・いまを楽しむ

策として「密閉・密集・密接」を避 が感染予防対策はこれからも続きま つけることが徹底されました。 けること、大人はみな必ずマスクを 十月に入り少し落ち着いてきました 新型コロナウイルスの感染拡大は コロナが蔓延してから、予防対

りではありません。 ます。しかし、マイナスなことばか ュニケーションを取る時に大きなマ 況となり、またなるべく距離を取っ ない、表情がわかりにくいという状 イナス要因となっていると感じてい て関わることは、子どもたちとコミ マスクをつけることで口元がみえ

を再認識することもできました。 ことがどれだけ安心感を与えるのか 的ヒントを見直し、また人に触れる 語的コミュニケーション手段や視覚 ャーや指さし、声の抑揚などの非言 ったのは大きな収穫です。ジェスチしかけることを意識できるようにな けること、はっきり、ゆっくりと話 らこそきちんと向かい合って声をか マスクがあって聞き取りにくいか

に向き合っていくことが大切」と言 ことを数えるのでなく、できること …害に向き合う時に、「できない

> ていきたいと思います。 クワクした気持ちを持って向き合っ の状況に対しても同じように、「ど んな楽しみ方ができるかな」と、ワ れますが、不自由なことが多いこ

用児童の作品) 課題や制作では集中できる環境にな ったかもしれません。 ※隣と距離を取ることで、 〇日中一 時利 上 0)



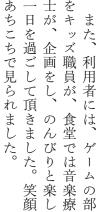
## はぁとぴあ原宿

# 出来ることがこんなにあった

作品の展示・販売も行う機会を作り 活介護の活動の様子をご覧いただき、 れ替え制で、コロナ禍の2年間の生用者・ご家族・後見人の皆様に、入 十月十六日 (土曜日)の催し。利









いて、 写真を見ながら、 利用者、ご家族、後見人の皆 お話しすることが出来ました。 日々の活動につ



をキッズ職員が、食堂では音楽療法 士が、企画をし、のんびりと楽しい ゲームの部屋 笑顔が

## 渋谷区くるるえびす

# から『日常

なりました。 ることが『日常』というスタートに う社会状況の中、そのコロナ禍であ 般では 年度より開所したことで、 『非日常』のコロナ禍とい 畑 世間

になってきています。 どが当たり前になっていき実際にそ 今後どのような『日常』になるか…。 できるということが一つの『日常』 の場にいなくても会議や講習に参加 スタンスが当たり前で始まっており、 コロナ禍においてリモート会議な 行事や地域交流もソー シャ ディ

ることができ、購入することができ 用者さんの作品をどこでも誰でも見 ば、作品販売会だけでなくさらに利 ら受注、販売までできるようになれ 様々な人への発信が必要になります。 というのもかかせない『日常』にな ズコロナ…新しい『日常』へ繋がる るような『日常』がくることがウィ 今後作品販売や展示、活動紹介など っています。くるるえびすとしても そして作品の展示、活動の紹介か そんな時代の変化の中でSNS

### 梅 福 祉 作 業 所

### 口 ナ禍を振り返って

たり、 話しをしていたと思います。 着用してほしいなど、常にマスクの ではなく、 ることもありました。 とを思い出します。マスクを着けら 用者にお願いしました。当時は、マ みとして、 れない方もいて、その都度お願いし スクを手に入れるのも難しかったこ 歩きで帰る方も家に着くまでは 半が過ぎました。 定期的に全体に周知したりす ウイル まずはマスクの着用を利 行き帰りのバス、電車の スの感染拡大から、 作業所内のみ 初めの取り組 田

ともしばしばありました。 た。なかなか事態を受け入れられな の利用者がストレスを抱えていまし い方も多く、職員と代案を考えるこ いたことが普通ではなくなり、多く 自粛」です。普通に出かけられて 番利用者を悩ませたフレーズは

ということでしょう。早くそんな状 しい話をしながら昼食を摂りたい」 さんの希望は、「仕切りもなく、楽 けて食事の時間を設けています。皆 ならないように、半数ずつ時間を分 は不満も多かったです。また、密に 切りがあるので食べづらいと、当初 食堂では、パーテンションで仕切 飛沫感染対策をしています。 仕

> 中で聞かれています。 普段の会話 0)

早期対応が可能となっています。 います。そのような意識があるので、 て、いつもと変化がないか確認して 利用者の様子観察です。 人ひとりの表情、立ち振る舞いを見 毒などです。 も感染予防に奮闘しています。 二回の館内消毒、作業場の換気や消 また、利用者だけでは 一番欠かせないのが、 朝から、一 毎 日

防にも協力的になってくれています。 クを着用されていて、また、感染予 方も徐々に出かけられ、外出時には、 出かけられなくて、我慢していた 今では、ほとんどの方が普通にマス

きちんと感染予防もできています。

状況を目のあたりにしています。 じています。現状、まだ仕事が回復 ださる企業もあり、 青梅福祉作業所に仕事を依頼してく していない企業もあり、厳しい社会 注も減少しました。そんな状況の中、 企業も仕事が少なくなり、当然、受 を受注しています。コロナの影響で、 作業所では、様々な企業から仕事 本当に有難く感

## 五十周年イベント

した。 になります。本来なら、近隣の方々 へ感謝の意を込めて盛大に催し物を て開設され、今年で五十年を迎えま に、都立立川福祉作業所の分所とし 青梅福祉作業所は、 九年に移譲を受けてからは十四年 友愛学園が、東京都から平成 昭和四· 十六年

> で縮小して行うことにしました。し したかったのですが、コロ に残したいということで、看板を制 かしながら、 作業所として、 ナの影 何か形



いただき、十月 局長にもご参列 事長や内山事務 作することにし 露目をし、 十二日にお披 全員



で記念撮影を



ました。

で、長く通われている方へ、敬意を っしゃいます。五十周年イベントの中 当初から通われている方が二名いら 用意して、利用者と職員で五十年を 振り返りながら、楽しく祝いました。 ささやかながら、 青梅福祉作業所には、開設 お菓子と飲み物を





どを聞けたことも貴重な時間でした。 表して賞状を送らせていただきまし た。ご本人から、五十年前の様子な

## 今後の青梅福祉作業所

過ごしていきます。 ますが、感染対策を怠ることなく、 だ感染対策が必要になると予想され 常に「コロナ禍」の中で毎日を過ご な財産となるでしょう。当面は、ま にとっても、 してきました。この経験は、 他事業所同様、 職員にとっても、大き 青梅福祉作業所も、 利用者

青梅福祉作業所のシンボルマークを 今回の五十周年で作成した看板に、

入れています。共 た。青梅福祉作業 0) う意味を、三色 色で表現しまし ・自由・真実と

関わる方たち

史の重みと地域の方々への感謝を忘と、五十周年シンボルのように、歴 いきたいと考えています。 更なる飛躍が出来るように

所に

### 青 梅 市

### 者 就 労 支 援 センター

### コロナの状況を踏まえた 今後の事業の在り方

中村俊久

# 、緊に期待すること

シャルディスタンス、スーパースプ 記憶がありません。 次々と飛び交っている社会は過去に やこしいカタカナ言葉が、世の中に た。一つの事象について、これ程や モルヌピラビル…順に並べてみまし オキシメーター、抗体カクテル、ブ レークスルー感染、ブースター接種 レムデシビル、ファイザー、パルス レッダー、エアロゾル、アビガン、 クラスター、 ステイホ 1 1 4,

字」を切に期待したいところいです。 明るい未来が望める「カタカナ文 次はコロナ前をも凌駕するような、

# 労働者におけるウィズコロナ

況に左右されず需要があり好調です 福祉関連事業等については、世の状 ントロールできない部分も多いです。 りますが、労働となると自身ではコ 個々の心がけ次第では如何様にもな スをきっかけに再燃した造語「ニュ ていくことになります。このウイル 私たちはしばらくコロナと共存し ノーマル」、生活面においては、 方で飲食業や旅行関連業等は パーなどの生活必需品産業や

> ます。 でしょう。 実感はあまり得られない状況にあり 喜びや社会参加をしているという充 特に障害者にとっては、働くことの ころで、建設的な議論にはならない た何に責任があるのかを追求したと は保障されている会社も多いですが、 自宅待機が長引いても、金銭面 このことに対してどこに、ま いていま

好の時間と捉えることが肝要なのか もしれません。 ができるよう、準備をするための絶 トを切った時に、更にスキルアップ を逆手にとって、 いま損害を受けている人は、 コロナ後再スター 現況

しま あり、

ます。 について主だった支援項目を記載 のかを比較するために、過去八年間 支援状況にどのような変化があった ここでコロナによって、昨年度 **コロナ禍での支援状況** 

### 《支援件数》

平成 25 年度	4,484
平成 26 年度	4,078
平成27年度	4,268
平成 28 年度	4,883
平成 29 年度	4,940
平成30年度	6,193
平成 31 年度	5,885
令和 2年度	6,051

と繰り返しの面談が増えた結果です。 な数字です。対面面談の代替として、 昨 年度はその メール、オンライン面談の増加 前 二年間と同 じよう

	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	2年度
身体	934	652	614	657	649	780	801	799
知的	2,096	1,960	1,868	2,130	2,187	2,486	2,711	3,007
精神	1,255	1,363	1,584	1,929	2,002	2,550	2,085	1,927

	0= 4-4-	00 444	0= 4-4-	00 444	00 444	00 44	03 444	0 4 4
	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	2年度
身体	3	4	5	5	4	5	2	3
知的	8	19	18	13	17	20	18	21
精神	9	9	16	11	17	19	26	15
合計	20	32	39	29	38	44	46	39

障害者が多いです。 字ですが 厚害者と精神障害 この数年は知的

はありません。

今年度以降

コ

あ は تلح 口

014	037	043	100	001	199
1,868	2,130	2,187	2,486	2,711	3,007
1,584	1,929	2,002	2,550	2,085	1,927
,	<u> </u>	Jt.	i <del>st</del>	/1	
加:	身安:	モ 少	援	化つ	_

面談が増加 より今後相談でき 者はコロナ拡大にまた、知的障害 いう不安も なくなるのではと ない。こ、知的障害がある。 女などについて中七待機や今後の不少しましたが、自 坂は昨年度多少減

濃い相談が増

ことはありません は、この数年と比昨年度において 《就職者》

難しいようにも思います。

遠い将来は解りませんが、

今後

Ā

が、「終息」(根絶)することは当面

収束」している状況ではあります

十一月初旬において第5波はほ

ぼ

支援機関としての心がけ

者は増加傾向ですでした。近年就職 較し特別落ち込むは、この数年と比 ついては横ば 身体障害者に いで

者が似たような数 は圧倒的に精神 が、中途就職

く所存です。

ては大きな 障害の比率に

間

は

ほ

	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	2年度
身体	3	2	5	2	4	2	3	0
知的	5	0	9	5	7	7	8	8
情神	10	7	11	12	11	10	11	9
合計	18	9	25	19	22	19	22	17
) I. ABIT								

いて、コロナの影掲げた四つの表からは、昨年度においての数 コロナ後にお くまで当支援セン せんでした。 出ることはありま 響が数字上色濃 未知数ですし、 の程度あるのか ナによる影響が ぼ横ばいで この八年 、離職者

理的に近い距離での支援を心がけてい えます。 等の間接支援については、同じく 状況が許せば、 来求められる役割は果たせないと考 て対面面談の利点を認識したように、 心」を持った「人」でなければ本 人」に対する直接支援や相談業務 やICTがどれほど普及しても、 オンライン面談を始めて改め 今後もできる限り物

ける

<

## 法人 消防庁からの感謝状拝受

る充実発展に貢献したとして東京消 を継続的に受講してきました。 とに職員を対象とした救命救急講習 これまで、友愛学園では事業所ご この度、その長年の取り組みによ

講を続けて行くつもりです。 日)に感謝状を拝受いたしました。 防庁より令和三年九月九日(救急の を持ち、これからも真摯な態度で受 人命を預かる仕事をしている自覚



法人

児童部駐車場の整備

り駐車スペースを多くとることがで 舗装を施し、駐車場内に生い茂って かけしてきましたが、アスファルト 者の方々には駐車場所でご不便をお いた樹木を整理したことで、以前よ 童部側の駐車場整備を行いました。 これまで来園される保護者や来園 九月六日から二十二日にかけて児

きました。今後は是非ご利用くださ



### 法人 新任職員研修

員フォローアップ研修を十一月十日 (水) に渋谷にて実施しました。 今年度の階層別研修である新任職

育成も法人にとっては大切なことで みえない状況ではありますが、 新型コロナウイルス感染の収束が 人材

四月に入職し少しずつ業務にも慣



### 成人部 作品販売会

方々との交流を目的とした作品販売 一月三日の文化の日、 地域の 時間とした研修となりました。 が改めてこの半年を振り返る貴重 れてきた頃だと思います。それぞれ な

### 法人 主任研修

います。 来について考える場としました。 ました。今年度は「知り合う」「共 しました。一月に三回目を予定して が互いのことを知り、共に法人の未 がら事業内容や地域も違う主任同士 ーマに同じ主任という立場でありな に作り出す」「提案する」を研修テ である主任研修の二回目をおこない にも触れられる有意義な時間を過ご 他事業所の様子や苦労、工夫など 一月十一日(木)、階層別研

> を購入して頂きました。 来園される方が直接手に取って作品 れまでに制作した作品を園庭に並べ、 会を催しました。 成人部利用者が

設け、 した。 法人事業を知って頂く機会となりま 法人の事業所を紹介するブースも 事業所紹介のVTRを流



### 編集後記

目ワードであるサステナブルな活動に触れたに生み出した作品たちでした。まさに今、注に生み出した作品たちでした。まさに今、注解が抵網工、染め物など自然の素材を材料に利 せましと園庭に並べられていました。焼き物出しました。作品たちが晴天の秋空の下、所 十一月三日に開催された作品販売会に顔を